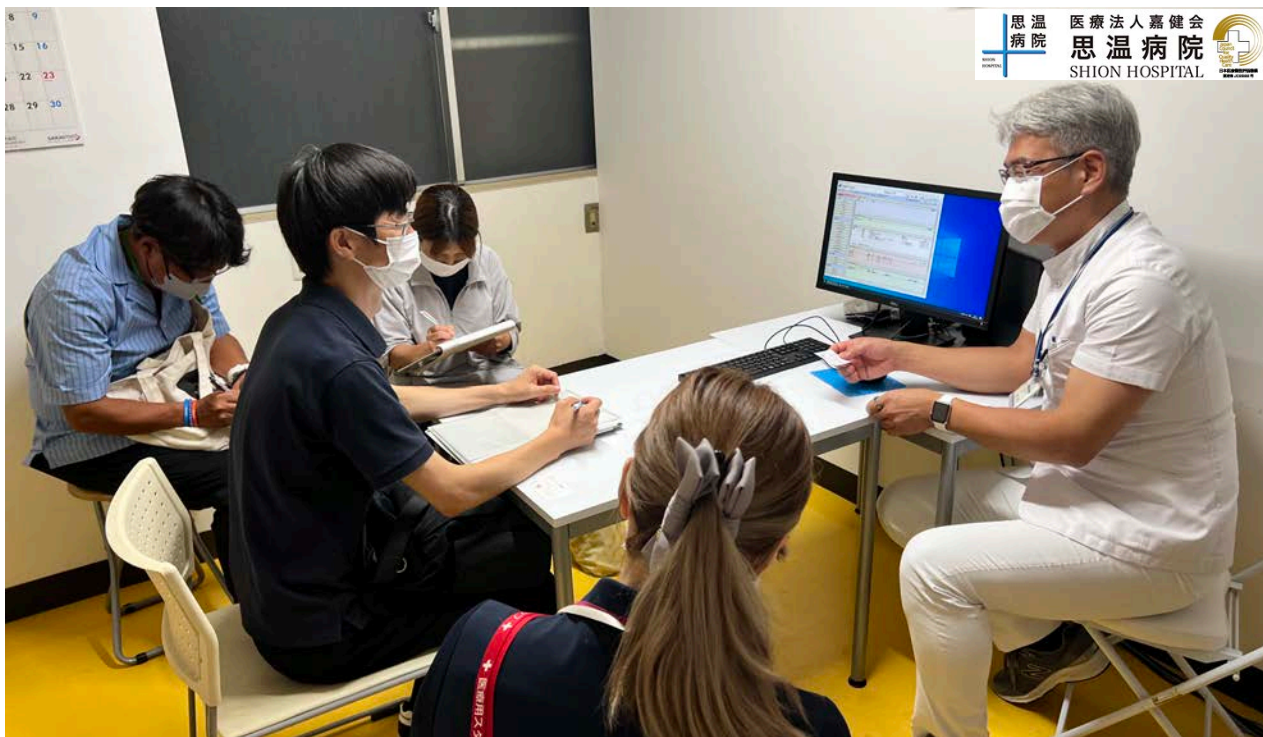


しおんだより VOL.35



多職種連携・チーム医療を実践しています

単独の医療機関の医師と看護師だけで、患者さんの治療が完結する…。そんな時代はもう過ぎ去りました。

現在の我が国では、患者さんは、やはり高齢の方が多く、多くの疾患を持ち、介護が必要な方も多いです。

医療機関も、高度急性期病院から、回復期、さらには、慢性期の病院と別れた上、診療所も専門分化が進むとともに、在宅療養支援診療所も一般的になってきました。

医療と介護の連携、医療機関同士の連携、そして、医療・介護職種の専門性の発揮がなくては、これからの地域医療で、患者さん、利用者さんを安全に、そして、安心してサポートしていくことは難しいと思います。

先日、地域の基幹病院で初期治療を終えて、当院へご紹介いただいた患者さんが、約1ヶ月のリハビリテーション期間を経て退院されるにあたり、退院時共同カンファレンスを実施しました。当院からは、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士が、そして、訪問診療側は、医師、看護師、薬剤師、介護士、ケアマネの総勢10名が参加し、院内での最新状況の共有や、在宅での支援体制を確認しました。終了後はベッドサイドに皆で伺いご挨拶をしましたが、患者さんの安堵の表情が印象的でした。

地域の基幹病院からご紹介いただいた患者さんが、当院でのリハビリを経て状況が改善したため、在宅療養を担当するチームに引き継ぎます。

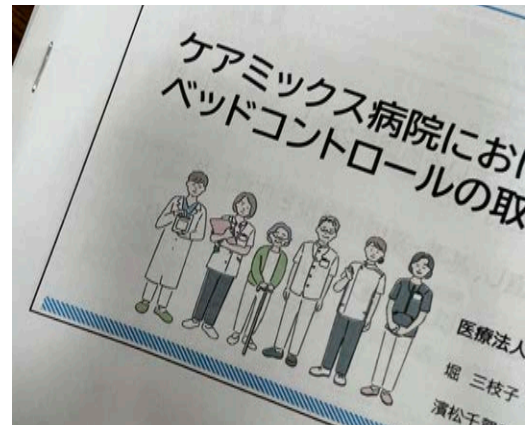
日常診療・業務の中での取組を、大阪病院学会で発表します

毎日の診療や業務にあたっていると、それだけで精一杯という感じがします。しかし、貴重な症例を担当させていただく中で、悩んだこと、工夫したこと、実践したことなどが沢山でてきます。

そういった経験や体験、そしてより良い治療のために調べたり考えたりしたことをまとめて、発表することは、医学の進歩には欠かせません。

当院でも、そういった活動になんとか参加したいと考えてきましたが、今年10月8日に開催される大阪病院学会で8題発表することになりました。

当日は、加藤厚生労働大臣やタレントの堀ちえみさんも講演されるそうです。色々勉強してきたいと思います！



今回は栄養科、検査科、リハビリ科、放射線科、薬剤部から各1題、看護部から2題の、計8題の発表を予定しています。

44年ぶりに訪れた観光地ではインバウンドを実感しました

先日の日曜日、京都で学生生活を送る長女から「クルマの運転の練習がしたい」というリクエストがあり、二人して宇治にある国宝・平等院鳳凰堂に行ってきました。

道すがら、「そういえば、昔行ったことがあるよな」と思い出していたのですが、確か小学生4年生の時だったので、もう44年も前になります。とはいえ、1000年近く経っている国宝は、44年は何も変化を及ぼしていない感じで、池のそばにたたずんでいました。

ただ、当時と何が異なるかといえば、外国人観光客の多さでした。アジアの方も、ヨーロッパの方も、うだるような暑さの中で、木陰で涼をとりながら、あちこちで写真を撮っていました。もちろん、写真はフィルムカメラでも、デジカメでもなく、スマホが圧倒的に多く、時代の変化を痛感しました。

それにしても、自宅から車で1時間もかからないところに、世界から見学に来る国宝があるなんて、ちょっと贅沢だよなと思いながら帰路につきました。（文責：狭間研至）



残暑も厳しい週末、照りつける太陽に照らされて平等院鳳凰堂も心なしか疲れているようにも見えました。

しおんだより 第35号 発行日：令和5年9月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711

HP: www.shion-hp.or.jp